

- Leschen, R. A. B., and R. G. Beutel. 2010. Nosodendridae Erichson, 1846, pp. 185–190. In: R. G. Beutel and R. A. B. Leschen (eds.) Handbook of Zoology, Vol. IV: Arthropoda: Insecta. Part 38, Coleoptera, Vol. 2. 786 pp., De Gruyter, Berlin.
- 野村周平・亀澤 洋, 2014. 東京都品川区におけるクロヒメトゲムシ (ヒメトゲムシ科) の採集記録と走査型電子顕微鏡による形態観察. さやばねニューシリーズ (13): 21–25.
- Oehme, B. G., 1949. Oeldrüsen bei der Imago von *Nosodendron fasciculare* Oliv. (Col.). Entomologische Blätter, 45–46: 12–14.
- 大塚康司, 2003. 町田市のクロヒメトゲムシ, 神奈川虫報, (143): 19–20.
- 酒井雅博, 1985. ヒメトゲムシ科, p. 133, pl. 22. 黒澤良彦ほか (編著) 原色日本甲虫図鑑 (III). 保育社.
- 斎藤明子・鈴木 勝, 2013. 東京大学千葉演習林で採集した甲虫類 (1). 房総の昆虫, (51): 38–40.
- Sharp, R. D., 1902. Byrrhidae pp. 670–673. In: Sharp D., A. Matthews & Lewis, G. 1887–1905: Biologia Centrali-Americana. Insecta. Coleoptera. Vol. II, Part. 1, London, 717 pp.
- 吉富博之, 2015. クロヒメトゲムシを島根県で採集. ホシザキグリーン財団研究報告, (18): 306.
- Yoshitomi, H., T. Kishimoto and C.-F. Lee, 2015. The family Nosodendridae (Coleoptera: Derodontoidae) of Japan and Taiwan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 21 (1): 35–58.

(2015年5月24日受領, 2015年6月12日受理)

【短報】対馬-博多間航路のフェリー船上で採集されたハラアカコブカミキリ

ハラアカコブカミキリ *Moechoitypa diphyssis* (Pascoe, 1871) は, 日本国内ではもともと長崎県対馬のみに生息する種であった. しかし, 1980年代以降九州本土および中国・関西地方へ侵入し, 定着している (草間・高桑, 1984; 大長光・金子, 1990; 福井, 2007). 対馬から日本本土への分散は, 主に対馬からの薪やシイタケ栽培用のほだ木の移入に伴って生じたと推察されている (大長光・金子, 1990; 高桑, 2007).

今回, 著者らは対馬-博多間のフェリー船上にて本種を採集したので, 本種の移動分散にかかわる重要な事例として記録しておく.

1♀, フェリーげんかい船内 (比田勝-博多航路), 18. V. 2014, 宮島健採集・保管 (中原亨同定).

採集個体は, 対馬市の比田勝港から福岡市の博多港へと移動するフェリーげんかい (九州郵船) の, フェリー後方の甲板上を歩行していた. 今回の発見は, 本種が船舶に紛れ込んで島外へと非意図的に分散する可能性があることを示唆している. 本種はシイタケのほだ木の害虫として著名であり, 侵入した九州や中国地方においてシイタケ栽培に大きな被害をもたらしてきた (大長光・金子, 1990; 福井, 2007). 今回のような船舶移動に伴う害虫の拡散は, 農業被害等の拡大を引き起こす恐れがある.

船舶に紛れ込んだ昆虫の非意図的な分散はカミキリムシ以外でも報告されており (荏部, 2001; 山本, 2010), 対馬-博多航路においても他の害虫の非意図的な分散が起こる可能性がある. 例えば, 対馬ではアジア原産の外来種ツマアカスズメバチが2012年に日本で初めて確認されており (Ueno, 2014), 船舶移動に伴う日本本土への侵入が懸念される. ツマアカスズメバチの食性は主に昆虫類で

あり, 日本本土への侵入に伴い, 捕食による他の昆虫類への影響や人体への刺傷被害などが拡大する恐れがある. このような船舶移動に伴う害虫や外来種の非意図的導入を防ぐためには, 船内の検査体制を厳格にすることが求められるだろう.

本報告は, 文部科学省博士課程教育リーディングプログラム「持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム」の組織研修ワークショップ参加中の採集記録である.

末筆ながら, 本稿をまとめるにあたり, 雌雄確認などにご協力をいただいた有本晃一氏 (九州大学大学院生物資源環境科学府), 原稿にご助言をいただいた細谷忠嗣博士 (九州大学持続可能な社会のための決断科学センター) にお礼申し上げる.

引用文献

- 福井修二, 2007. 島根県に侵入したハラアカコブカミキリとその防除. 島根県立三瓶自然館研究報告, (5): 67.
- 荏部治紀, 2001. 「おがさわら丸」に飛来したりユウキウツヤハナムグリについて. 甲虫ニュース, (136): 14–15.
- 草間慶一・高桑正敏, 1984. 516. ハラアカコブカミキリ. p. 456. In: 日本産カミキリ大図鑑. 日本鞘翅目学会編. 講談社, 東京.
- 大長光 純・金子周平, 1990. 福岡県におけるハラアカコブカミキリの発生消長と防除に関する研究. 福岡県林業試験場時報, (37): 1–58.
- 高桑正敏, 2007. 外来種をどう扱うべきか～地域甲虫相を検討するに際して～. 甲虫ニュース, (157): 23–28.
- Ueno, T., 2014. Establishment of the Invasive Hornet *Vespa velutina* (Hymenoptera: Vespidae) in Japan. International Journal of Chemical, Environmental & Biological Sciences, 2: 220–222.
- 山本周平, 2010. 「おがさわら丸」船上で採取されたイエシロアリの有翅虫. しろあり, (153): 1–5.

(宮島 健 812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1
九州大学大学院人間環境学府)

(中原 亨 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学大学院システム生命科学府)